

入選

僕の家

中札内中学校一年 真野 煌希

中学校に入学して、感じることはありません。それは、授業中のことです。先生の言葉づかいが、男子に厳しく、女子には優しい気がします。名前を呼ぶ時に男子には語気が強いが、女子にはいつも優しい気がします。僕は、優しくなくてもよいので、普通に呼ばたいです。僕は、男女の差別をすることには、反対です。差別はだめだと思っています。男子も女子も平等でなければならないと思います。

ところで、僕の家は、中札内村の西戸蔦でビート、小麦、えだ豆、ジャガイモなどの作物を作っている農家です。トラクターや重機もあります。運転は、大型免許をもっている父しかできません。畑の仕事は父が、家の中の洗濯やご飯の準備、片付け、掃除、買い物、僕の勉強の相手などは、母の仕事です。このように僕の家では、父と母は仕事を分担して行っています。父が家の中の仕事や母が畑の仕事をすることは、たまにしかありません。これは、差別でしょうか。これは、差

別ではありません。なぜなら、二人の仕事が逆に
なったら、家が終わってしまうからです。では、
二人とも畑作の仕事も家の中の仕事も半々にし
て行ったらどうでしょう。僕は、このようにやつ
た方がいいと思います。晴れた日は二人で外の
仕事をして、雨の日は二人で家の中の仕事をし
たらいいと思います。しかし、今は、父と母で完
全に分業しています。それは、父はもともと農家
出身で畑仕事には慣れているからです。母は、農
家出身ではないのでやはり外の仕事には慣れて
いません。だから、二人が分業するのは当然のこ
とで差別ではなく、その人に合った仕事を割り
振って効率よくしているのだと思います。

男子だからこの仕事、女子だからあんな仕事
というのは、絶対よくないですが、この人にはこ
んな仕事が合っている、あの人にはあんな仕事
が合っている。という考え方が僕はよいと思い
ます。